

KEIWA COLLEGE REPORT

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌
敬和カレッジ・レポート

第66号 April 2011

発行/敬和学園大学後援会 敬和学園大学広報委員会



Close up

「キラリと光る小さな学園」 理事長 後宮 俊夫

未来への希望の光となって「第17回卒業式のご報告」
学生支援体制、奨学金制度、就職支援体制のご紹介

神田ゼミによる新発田まつり調査報告会
聖書を学ぶ「ビブrosの会」が誕生！
オレンジ会会長 渡邊幸二郎氏を追悼して



震災ボランティアチームを結成

3月11日から続く東北地方太平洋沖地震の被害状況が報道を通じて明らかになるにつれ、学生および教職員から「自分たちにできることはないか」という声が大きくなってきました。これを受け、ボランティアセンターの呼びかけで、有志による「Keiwa HOPE 敬和たすけ隊 (Keiwa for Helping Other PEople)」が結成され、数回のミーティングを行い、学内外での募金活動、近隣の避難所での炊き出しのお手伝い等の活動をはじめました。在学生、卒業生、教職員間の連絡手段には、TwitterやFacebookを活用し、情報交換に役立てています。

先の見えない復興への道のりを、私たちなりに支え、少しでも希望を持っていただけるように考え、行動していきます。

もくじ CONTENTS

Close up	1
「キラリと光る小さな学園」理事長 後宮俊夫	
後宮理事長をおくる言葉	3
「連合艦隊司令官の如く」	天満教会牧師 春名康範
「キリストに自らをささげた信念の人」	学長 鈴木佳秀
「敬和学園への愛」	事務局長 宇田川潔
未来への希望の光となって「第17回卒業式のご報告」	4
学生支援体制について	6
特待生制度・奨学金制度のご紹介	6
就職支援体制について	7
神田ゼミによる新発田まつり調査報告会	8
国際交流もちつき大会を開催	8
聖書を学ぶ「ピブロスの会」が誕生!	9
阿賀北ロマン賞授賞式、科目等履修生の募集	10
オレンジ会会長 渡邊幸二郎氏を追悼して	11
同窓会リレー・エッセイ⑩	12
「世界へ視野をひろげた学園生活」山口喜恵 (1期生)	
キャンパス日誌 (1月～3月)	13

〈表紙写真〉
震災に伴い、体育館で卒業式を挙行 (p.4)



キラリと光る小さな学園

一九八九年一月、しばらく日本基督教団の役職から解放されてやれやれと思っていたときに呼び出され、全くお門違いの学校法人敬和学園の理事長の職に就きました。定員六〇〇名の高等学校を運営していた学校法人が大学を創設するという大変なことに取り組んでいる時でした。理事会の下に準備室の方々が作業を進め、敬和学園大学は誕生しました。

大学は新設であるが故に、教職員が一丸となって教育の質を上げて、いわゆるランキングを上げて入学生の獲得に努力し、それなりの成果を上げていました。しかし、以前からいわれていた一八歳人口の減少に伴う「大学冬の時代」の風潮に抗し得ない兆しが見えてきました。この時点で早くそのほうの才能のある方に譲るべきでしたが、多くの方々が助けてくださっているのです、その機を失ってしまいました。

さまざまな対策が講ぜられました。入学者の定員割れが現実となりました。ところがこの時、一九二二年（大正十一年）生まれで、第二次世界大戦に真珠湾攻撃から海軍士官として従軍した経験が災いして、形勢不利の時に敵に後ろを見せられるかと

Close up

理事長
後宮 俊夫

意地を張り、皆さまにご迷惑をかけながらも職を全うしてまいりました。そして、皆さまの懸命な努力に助けられて今日に至りました。

社会状況を見つつ、建学の精神と目標は保持しつつ、地域への貢献、地域福祉の増進に行政と住民との協力を強め、その効果が見えてまいりました。地域の経済的地盤沈下の中で、具体的に教育科目、特にそのゼミやボランティア活動等から、地域福祉につながる新しい事業を創業する気



運も生じてきています。

英語文化コミュニケーション学科にあっては、今日の教育課程における英語重視の状況に加えて、企業のグローバル化の中で、従来培ってきた英語教育の価値が一般にも認識されるようになってきています。

国際文化学科については、今日の世界経済の状況下でさまざまな分野でネットワーク化が進む中、国際的な視点と教養とを身に付けて、それを地域社会で活かすという、地域連携教育が実を結びつつあります。

共生社会学科においては、開学より実施してきたボランティア活動が改めて見直されてきております。また文化の違いがあっても敬和学園で学んだ社会活動の実践は、今日急成長を遂げている国家での急速な高齢化の中で、大いに有用にな



大学建築工事の入札（1990年3月）

ると予想されます。留学生にとってはこ

とさら役立つと思います。
高等学校を見ますと、開学以来の敬和学園の教育の重要性が今日の時代に改めて認識されてきています。もちろん、教職員の一大となった懸命な努力、創設以来培ってきたさまざまな支援組織の継続的な熱心な活動、学校との緊密な連帯等の成果でしょう。

卒業生たちの進学した大学等において、彼らの評判が大変によいことが全国的な評価を高め、志願者の全国的な広がりを与える要因の一つになっているようです。これは創学当時の全国からの入学志望者の状況とは違ってきていますが、県内の入学人口減の時に得がたい状況です。

さらにキリスト教精神による教育の一つの大きな成果として敬和学園高等学校出身の牧師たちが多く、かつ活発な活動をされていることがあります。しかもこの方々が母校愛に燃えておられます。学校もまたこの方々の研修会を持ったりして、これに心えています。

今日の社会状況の中、敬和学園における教育が評価されてきています。ジョン・モス宣教師に刺激されて新潟地区の諸教会の祈りの内に誕生した小さな学園ですが、その祈りが今はこのような形で、その実を結んでいるのだと信じます。

私立学校は建学の精神に立ち特色を發揮して社会に貢献すべきであると盛んに言われています。敬和学園は規模の小さ

Profile

後宮 俊夫 理事長 プロフィール

1922年、和歌山県生まれ。

1960年、日本基督教団の牧師になり、大住伝道所、世光教会で牧会した。1978年から1988年まで、日本基督教団総会議長を務める。

1989年1月、学校法人敬和学園理事長となり、2011年3月まで敬和学園を中心で支えた。甲西伝道所牧師、社会福祉法人近江ちいるば会理事なども務めている。

な学校法人であります。その中身はキラリと光るものがあることを、誇らしく思います。今後ますます、主の御心にかなうって、その教育が充実進展して、寄附行為に掲げられている目標が達成され、世界に、日本に、主のみに叶う貢献ができますようにお祈り申し上げます。



米寿のお祝い（2010年7月）

連合艦隊司令官の如く



天満教会牧師
元本法人理事
春名 康範

一九八八年一月、大学設立計画は座礁し、敬和学園の存続さえ危ぶまれたとき、火事場の栗を拾うがごとく理事長を引き受けて、連合艦隊を統率する司令官の如く私たちを導いてくださり、一年後には大学設立の認可を受けるといふ離れ業をやり遂げてくださった後宮俊夫先生の御働きに心から感謝いたします。

初代学長を引き受けてくださった北垣宗治先生と理事長を引き受けてくださった後宮俊夫先生がおられなければ、一九九一年春の敬和学園大学開学という奇跡的な展開は起こらなかったと、今も小説にできそうな当時の出来事を思い出します。

それから二〇年、当時の後宮俊夫先生の年齢に自分になって、果たして自分ならあの大役を担えたかと自問することがありますが、不可能としか言いようがありません。今は背中も曲がり、お年を召された後宮俊夫先生とさまざまな会でご一緒するたびに、二二年間のご苦労を感謝し、頭が下がります。

この度、大学創立二〇周年を境に理事長をご退任されると聞きました。敬和学園のために長年ご尽力していただき、本当にありがとうございます。

キリストに自らをささげた信念の人



敬和学園大学長
鈴木 佳秀

後宮俊夫理事長には、『み手のうちに激動の時代を生き抜いた八十年』というご著書がある。副題のとおり、先生のご生涯は、激動の時代に立てられた伝道者そのものであります。学長に就任し、理事会にて先生が捧げる祈り、聖書に基づく奨励を隣で聞く機会に恵まれました。明快な言葉での説教をお聞きするたびに、キリストに支えられている方、キリストに自らをささげた信念の人であるとの印象を強くしました。先生が日本基督教団の総会議長として混迷を極めていた時代に教団の舵取りをなさったこと、揺るがない信念で敬和学園の舵取りをなさってこられたこともすぐにわかりました。先生の信仰のエネルギー、力あふれる説教のルーツについては、冒頭のご著書を後に知るに至り、納得しました。

先生は、社会福祉法人ちいるは会の運営にも責任を持っておられます。大学に共生社会学科を設置するために情熱を注がれたのも偶然ではありません。主なる神は、先生を牧師としての生涯で終わらせることをなさらず、器として、教育に福祉にと多方面にわたariお用いになっていくのに気づかされます。今後、敬和学園のため、主なる神に執り成しをしてくださるよう、お願いいたします。

敬和学園への愛



敬和学園大学事務局長
宇田川 潔

後宮理事長は日本基督教団総会議長であったので以前から名前とお顔は存じていましたが、初めてお目にかかったのは、二〇〇一年四月に事務局長に就任し、北垣学長(当時)に連れられて理事長室を訪ねた時でした。敬和学園の歴史、大学の現状を話される一つ一つの言葉から、理事長が「心底から敬和学園を愛しておられる」ことに強い印象を受けました。そして、私も敬和学園をこのように愛したいと強く思わされたのです。

理事長の下で仕事をして、現状を分析し、先を読む洞察力の凄さを感じます。それも一〇年先を見据え、今どう行動するかです。大変失礼な言い方ですが、このお歳で大きな夢を持っているのは永遠の命に連なる道を歩まれているからなのだと思います。私などは物事の判断基準を周りの状況や損得に置きやすいのですが、理事長は法と規則や書類を読み込んで判断し、その行動には芯が通っています。二二年二月の理事長在任中に、多くの事柄を的確に判断され、大学の危機を回避するために、共生社会学科の新設、認知症グループホーム「富塚」のそみの里」の誘致などを行いました。名誉理事長として、これからも後進のご指導をお願いいたします。

第一七回卒業式が三月一八日、本学の体育館で行われました。例年、卒業式の会場としていました聖籠町民会館が、三月一日から続く東北地方太平洋沖地震の被災者の受入れを決定したため、式典の二日前に急ぎよ会場を変更し、実施することとなりました。

式典は、震災犠牲者への黙祷ではじまりました。鈴木佳秀学長からは、卒業生一人ひとりに、力強い握手と共に「卒業証書・学位記」が手渡されました。鈴木学長から卒業生に贈られた「命を与えられているという重みを忘れず、自分も持つて生きて欲しい」というメッセージは卒業生それぞれの胸に深く刻まれたことでしょう。

また、式典に合わせ、学生、卒業生による「被災地への募金」活動も行われま



出会いから学んだ「生き方」

共生社会学科卒業

島田 裕子



社会人学生として学んだ二年間は、

喜びと感動と共にあったという間に過ぎ去りました。入学当初から感動の毎日でした。人間とは、ケアの心とは、共に生きるとは…、仕事をする上で最も必要であるにも関わらず、しっかりと向き合うことができずにいたことを、じっくりと学ぶことができたのは敬和ならではの恵みでした。何を聞いても経験と結びつき、若い時には味わえなかった勉強の面白さを知りました。

職場では「これでいいのだろうか」と不安なまま仕事を続けていましたが、

自分で考え判断するための土台を教わったように思います。現場に役立ちそうなお話は、レポートにして職場の仲間とも共有しました。また勉強が単なる知識にとどまらず「生き方」につながり、仕事上の必要を越えて、いかに生きるかを問うものになっていきました。

サークルや課外活動で知り合った若い学生さんたちとの交流も素晴らしい思い出です。悩みながらも真剣に生きていこうとする彼らの真摯な態度や「生」への真剣な問い、みずみずしい感性、純粹で柔らかい心に大いに教えられ、たくさんの感動をいただきました。知との出会い、人生の先を行く先生との出会い、そして若者との出会い…、ここでいただいた感動を新しい力に変えて、社会と人々に仕えていけるように努力したいと願っています。

第一七回卒業式のご報告

した。皆さまからの暖かいお気持ちとして、一十万円以上の募金が集まり、日本赤十字社およびNPO法人にいがた災害ボランティアネットワークへ全額を送金させていただきますました。たくさんのご協力ありがとうございました。

卒業式の後、新潟グランドホテルへ会場を移し、卒業記念パーティーが行われました。卒業準備委員から、今回のパーティーはお酒を入れずその差額を被災地への義援金としたという提案があり、満場一致で承認されました。限られた時間でしたが、卒業生、保護者の皆さん、教職員で大学生活を思い起こしながら語らいの時を持つことができました。

この卒業式が地域への明るい話題となり、そしてこの時に社会に巣立つ卒業生の皆さんが、希望の光となり、社会を照らしていくことを期待しています。

(事務局)



宝物に囲まれて過ごした学生生活

卒業準備委員長

宮澤 健人



卒業アルバム製作過程で、入学してから四年間のさまざまな写真を見ました。そこには多くの仲間の笑顔と楽しい思い出が詰まっています。もちろん、学生生活を送る中で壁にぶつかることもありましたが、仲間と共にその壁を乗り越えた時、そこには新しい笑顔が生まれます。このようにして、私たちの学生生活は笑顔で溢れています。そこで、今年の卒業アルバムのタイトルを「煌笑」としました。アルバムを開くと、暖かい気持ちになれる

こと間違いなしの一冊となりました。

また、この仕事を通して改めて学生生活を振り返ると、多くの方々の支えがあって今があることを実感しました。人は一人では生きていけないというの、まさにそのとおりで、多くの支えが今の自分を育てたのだと思います。これから、一社会人として敬和学園大学で学んだことを生かし、さらなる高みを目指したいと思います。

卒業記念品は、「液晶デジタルテレビ」にしました。アネックスホールに設置しましたので活用してください。

最後に後輩の皆さんへ。学業から、教職員の方々から、大切な友達から、さまざまな場面から得るものがあります。その一つ一つが人生の宝物になります。私がそれを見つけたように、皆さんもぜひこの敬和学園大学でその宝物をたくさん見つけてください。

円滑なキャンパスライフを

学生支援体制について

学生生活の質の高さは、教員と学生の間でのコミュニケーションの深さにかかっています。敬和学園大学では学生の皆さんが円滑な学生生活を送ることができるよう、次のようにさまざまな支援体制を整えています。

★アドヴァイザー制度

専任教員がアドヴァイザーとなり、学生一人ひとりを入学から卒業までケアする制度です。高等学校でいうクラス担任のような制度です。授業・学習に関することはもちろん、生活面、就職・進路など多岐にわたりサポートしています。

★オフィス・アワー

専任教員が、週の特定の曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生の授業や生活面での問題、進路などについて相談することが出来ます。

★カウンセリング・ルーム

ひとりでは解決できない問題に直面した学生のために「カウンセリング・ルーム」を設けています。臨床心理士の資格を持つカウンセラーが学生のさまざまな悩みにアドヴァイスを行います。相談内容、個人の秘密は厳守されます。

【日時】火・水曜日（今成先生）、木曜日（星先生）二四時三〇分から一八時三〇分

★障害者支援

学内のバリアフリー化と共に、肢体不自由や発達障害の学生の実態を把握し、障害を持つ学生が快適な学生生活を送ることができるよう支援しています。

★セクシユアル・ハラスメントについての相談

学生・教職員に関係するセクシユアル・ハラスメント問題が生じたときに、相談員が被害を受けた人の苦情相談を受け付けます。相談員と一緒に解決の道筋を考え、セクシユアル・ハラスメントという人権侵害から守り、支援を行います。

★ティーチング・アシスタント（T・A）制度

授業における教員の補助や、大学の施設管理業務などに学生をアルバイトとして従事させる制度です。学生を授業等の運営業務のアシスタントとして位置付けると共に、学生への経済的支援、就業経験の提供、学生の視点による大学運営への提案などを目的としています。

（学生委員会）

がんばった成果を評価します

特待生制度・奨学金制度のご紹介

敬和学園大学は、学業、資格取得、スポーツをがんばった学生、経済的理由により学業継続が困難な学生などを対象とした独自の奨学金制度を整え、学生を支援しています。また学内奨学金のほかに、日本学生支援機構の奨学金があります。

【学業をがんばった学生】

- ・学業優秀奨学金
- ・各学年学科の成績一位から三位の者
- ・海外長期留学奨学金
- ・海外長期プログラムにて必要な単位を修得した者（特待生を除く）

【資格取得をがんばった学生】

- ・在学生資格特待生奨学金
- ・実用英語検定準一級または、TOEIC七三〇点以上を達成した者（編入、シニア入学者を除く）
- ・資格取得奨励奨学金

難易度の高い資格を取得、または試験に合格した者

【スポーツをがんばった学生】

- ・スポーツ奨励奨学金
- ①全国のトップレベルの技術を有すると認められる者
- ②全国の準トップレベルの技術を有すると認められる者
- ③都道府県のトップレベルの技術を有すると認められる者

二〇一二年春採用を対象とした学内合同企業説明会を二月一八日に、本学体育館を会場にして開催しました。新卒学生の就職難について頻繁に報道されている中、昨年、一昨年並みの七一社の企業の方々に参加いただきました。対象となる三年生はもちろん、最後まで就職活動の継続を余儀なくされている四年生向けの追加募集についても情報を提供していただき、心より御礼申し上げます。

今回から二年生にも参加を呼びかけたところ、関心を持つ二〇名以上の学生が三年生と一緒にスーツ姿で企業のブースを回り、さまざまな業界のお話をうかがうことができました。慣れない場面で緊



企業の方のお話を真剣に聴く学生

張状態の学生も見られましたが、明確なキャリア・プランは今後の学業に関して目的意識を持つことにもつながるのではないのでしょうか。

三年生向け求人情報が続々と寄せられています。これらの求人は学内の掲示はもちろん、大学ホームページを通じて、インターネット上でいつでも閲覧することができるようになりました。学内外の合同企業説明会から、個別の会社説明会、採用試験と就活スケジュールは足早に進んでいきます。自主的な取り組みとスケジュール管理がカギとなります。また、素晴らしい社会人になる素質があっても、筆記試験を突破できず、面接でアピールする機会を持つことができない残念なケースもあります。地道に基礎学力をつける。授業での発表・レポート作成を通して簡潔で分かりやすい言葉でプレゼンテーションする力をつける。ニュースを意識的に見る、新聞に目を通すなどして、日ごろから時事問題に関心を持つなど継続的な努力が必要です。そして、これらは初年次からできる就職活動です。

大学の各行事で保護者の皆さまとお話すると、これまで以上に就職への関心の高さがうかがわれます。ご家庭でも時には「人事担当者」の目でわが子を見て、「社会人」として成長していけるようアドバイスをよろしく願います。

(就職委員会・キャリアサポート課)

※ 対象種目はバドミントン、アーチエリー、硬式テニス

【経済的な支援、その他の奨学金】

- ・学業支援奨学金
- ・学業成績が優秀にも拘らず、経済的理由により修学が困難な者
- ・敬和学園大学奨学金
- ・経済的に困窮し、学業の継続が困難な者（外国人留学生を除く）
- ・緊急援助資金
- 入学後に保護者の死亡・失職等により家計が急変し、学業の継続が困難な者（外国人留学生を除く）
- ・ケリー・ニューエル奨学金
- ①公道の教会に所属していること
- ②キリスト教主義大学の学生として人物、学業ともにすぐれ、他の学生の模範であると認められる者

【日本学生支援機構奨学金】

- ・第一種奨学金
- 特に優れた学生で経済的理由で著しく修学困難な者（無利子貸与）
- ・第二種奨学金
- 第一種奨学金より緩やかな基準で選考された者（有利子貸与）

新入生、留学生を対象とした奨学金制度も用意しております。

詳しくは教務課学生係（〇二五四・二六・二五〇九）までお問い合わせください。

地域を学び、地域と成長

神田ゼミによる新発田まつり調査報告会

神田ゼミの二、四年生が、これまで三年間行ってきた「新発田まつりの台輪運行と職人町の獅子舞」調査の報告会を、二月二十七日に新発田学研究センターで行いました。報告会には、調査でお世話になった地域の方々をお招きしました。

今回の報告内容は、「新発田まつりにおける台輪、組織から見る台輪運行、そして職人町の獅子舞について」でした。学生たちが今回の調査で注目し、焦点を当てて分析したことは二つあります。一つは台輪や獅子舞に関わっている方々が、それぞれの町内の組織の中で、役割を経験していくことで、地域や台輪組織との



地域を学び、地域と共に成長

関わり方や当事者の自覚がどのように変化していったのかということです。もう一つは、これらの祭りは伝統行事とはいえ、時代と共に変化していくのが当然の生きた無形文化財です。それでも観光と伝統との板挟みで、当事者は苦慮しています。この変化を当事者の方々はどのように捉えているのかという点です。

この日参加してくださった方々からは、当事者では気がつかない事柄が見えてきておもしろかったとか、学生の立場からこうした方がいいという意見をもつと現場にぶつけて欲しかったなどの意見をいただきました。後半の部分は、調査をさせていただく学生にとっては大変難しいご意見ではありました。

今回の報告会は、特に四年生にとっては三年間の調査の成果を聞いていただけの貴重な機会となり、これから社会に出ていくにあたっての大きな自信になったと思います。また二、三年生は、この経験を生かしてさらなる成長を重ねていくと欲しいと願っています。

なおこの成果は、本学の「新発田学研究センター」が発行する『年報 新発田学』第二号にも掲載していますので、どうぞ学生の活躍ぶりをご覧ください。また三月二十六日には、早稲田大学における民俗芸能学会主催による学生の卒業論文・主

融資論文の発表大会でも披露しました。
(国際文化学科 神田)

日本人学生、留学生、地域の方々交流

国際交流もちつき大会を開催

新春恒例の「国際交流もちつき大会」を一月一七日に開催しました。司会は、中国人留学生と日本人学生がなかよく担当してくれました。そのほかの進行も「日本語」履修の留学生と中村ゼミの学生たちががんばってくれました。

学生たちが勢いよくお餅をつくと、自然に「よいしょ！よいしょ！」と、国籍を超えたかけ声がわき上がりました。「ゴーン」と臼のふちをたいてしまうこともありましたが、それも拍手喝采、盛り上がりました。後半は、おいしいお餅をほおばりながらクイズをして、またひと盛り上がり。留学生、日本の学生、教職員、地域の皆さまが一つになれました。



「よいしょ！よいしょ！」とかけ声

学生たちが聖書を軸に語らう

「ビブrosの会」が誕生!

大学創立二〇周年を祝った二〇一〇年度、学生たちによる聖書を学ぶ会「ビブrosの会」が誕生しました。毎週水曜日の午後、尋真館二階の教室に集まり、旧約聖書を読んでいます。顧問の私は半分ほどしか出席できないので、学生たちが自主的に会を進めています。クリスマスには、会のみんで先生方、職員の方皆さんにクリスマス・カードを差し上げました。毎週火曜日には有志による祈り会も行っています。二〇年前には一週生による聖書グループがありましたので、ビブrosの会はその復活です。敬和では一年生は全員、聖書を学びますが、この会では聖書を軸に互いにゆっくり聴き合えることが魅力です。

(宗教部長 大澤)



卒業する先輩へ寄せ書きをプレゼント!

いのちの存在を感じる空間



英語文化コミュニケーション学科四年

小林 涼

ビブrosの会に参加して思うことは、とても楽しいということです。聖書の研究を通してそのようなのですが、メンバーたちと触れ合うことで、他の人生からの視点やまったく新しい考え方を知らることが楽しいです。また自由な話をしたり、心の内に思っていることを話し合ったりすることでスッキリします。それがとても楽しいのです。

メンバー一人ひとりの存在や先生方のあたたかさを知ること、いのちは助けられ、支えられなければ生きていけない存在だと感じます。さらにいえば存在しているすべてのものや出来事、良いも悪いも含めて物事は成り立ち、寄り添っていることを感じます。自分もまた寄り添い存在していることに、感謝の念が強くあります。そんな思いが、私をビブrosの会へと向かわせてくれていきますし、見えない力を感じます。人間やいのちの根底にある流れは、聖書の中の教えと近く結びついていると思いますし、メンバーとふれあい、学び、感じることは、私たちのいのちがどのような存在であるかを悟らせてくれると思います。

ビブrosの会は、私にとって癒しであり、物事の深みを知り、感じることで広がる空間です。

国境を超えた友情が育まれました

英語文化コミュニケーション学科四年

李 海蘭



「国際交流もちつき大会」に参加するのは今回が初めてでした。今までは、なかなか時間が取れず参加できませんでしたが、司会を任せられることになり、参加を決めました。

このイベントの目的は、留学生と日本人学生の交流を深めることでした。司会進行は、私と日本人学生とで進めさせていただきました。この大会を通じてよい友情関係を築くことができ、司会もうまくいきました。また、授業では顔を合わせているものの、なかなか話す機会がなかった日本人学生の人たちとも楽しい時間を過ごし、友情を深めることができました。後半は、お餅を食べながら世界の話やクイズなどをして大いに盛り上がりました。日ごろの勉強に励むのももちろん大切なことですが、今回のような、学生や教職員の方々、地域の皆さまが一丸となって行事をし、交流を深めることもとても大切なことだと思いました。また、来年の餅つき大会が楽しみですね。

文学でまちおこし

第三回「阿賀北口マン賞」授賞式

第三回「阿賀北口マン賞」授賞式および、まちの駅よろず「新発田学研究センター」開所四周年記念講演会を二月二十六日、新発田市生涯学習センターにて開催しました。

講演会は、四方田犬彦明治学院大学教授をお迎えし「七人の侍」が与えた影響」と題して、黒澤明監督作品の魅力をお話いただきました。授賞式では、森邦雄新潟県副知事に本賞の新潟における意義などを語っていただいた後、鈴木学長より、各部門の受賞者に賞状と地元協賛企業・団体提供の豪華賞品が贈られました。なお、受賞者と作品名は、本学および阿賀北口マン賞のホームページで紹介していません。(新発田学研究センター)



「阿賀北口マン賞」受賞者の皆さま

キリスト教ブームの今、原典を学ぶ

科目等履修生を募集しています

西洋美術や文学に触れて「キリスト教をもっと知っていたら」と思うことはありませんか。日本を代表する旧約・新約聖書学者が、壮大な聖書の物語をわかりやすく解き明かします。火曜日には本学副学長の山田耕太による「新約聖書の世界」、木曜日は学長の鈴木佳秀による「旧約聖書の世界」を開講します。お仕事帰りにも参加していただきやすいように、会場は新潟駅直結のプラザカー内の新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」で、午後七時からの開講としました。

その他にも、本学で開講している科目のほとんどは、皆さまの関心に応じて受講していただくことができます。外国人教員が担当し、生きた外国語に触れられる英語、ドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語、韓国語の授業は毎年人気です。「児童英語教育」や「視覚芸術論」などユニークな授業も開講しています。ほとんどの科目は半期二〜四万円を受講できます(一単位一万円)。たくさんのご参加をお待ちしています。

(教務委員会・教務係)

●お問い合わせ、お申し込み先

敬和学園大学教務課教務係

電話 〇二五四・二六一・二五二四

メール kyomu@keiwa-c.ac.jp

寄付者ご芳名

(二〇一一年二月二十八日現在、敬称略)

二〇周年記念募金

〈一般〉

星野伸蔵、細野ヤエ、佐伯ヒサエ、齋藤久雄、渡辺好政、株式会社「コバヤシ写真機店」

〈卒業生・在学生・保護者〉

新田和子(一)、桜井博子(一)、斉藤益生(四)、木村識子(九)、鹿島孝夫(一六)、渡邊博市(一九)

〈学園関係〉

本間久美子、川崎裕晃、長澤廣子、中村義実、鈴木麻由、矢嶋直規

アーチエリレンジ募金

〈一般〉

家井偵弑、石井彰、神林裕、金子健三、木戸邦彦、北上眞由香、小島慎二、松永温、宮嶋正明、坂井秀夫、柴本勇、鈴木長栄、田中順一、渡部優、渡辺清明、アーチエリー新潟 長好晴、片山歯科医院 片山修

〈卒業生・在学生・保護者〉

丸山博史(一五)、梨本律子(二八)、川瀬真斗(一九)、岡村雅彦(二九)、五十島強(二〇)

〈学園関係者〉

小西真人、小淵康而

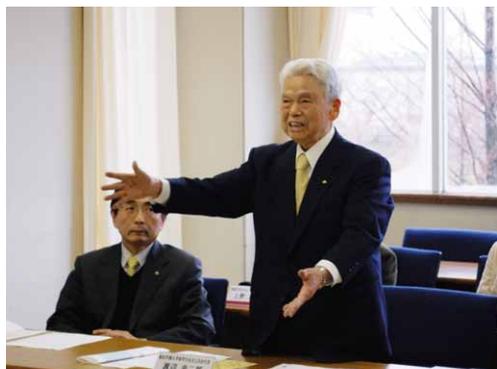
※アーチエリレンジ募金をいただきました企業・団体様の名称は、次号でご紹介します。

敬和学園大学の育ての親

オレンジ会会長 渡邊幸二郎氏を追悼して

渡邊幸二郎さんに最初にお目にかかったのは、学長として辞令を受けた二〇〇九年四月一日でした。最初の仕事が、オレンジ会の会長にお目にかかり、ごあいさつをすることでした。にこやかに対応していただき、緊張を解きほぐしてくださいました。新任の学長を迎える気持ちを感じることができたからです。この出会いは印象的で、鮮明に記憶に残っています。

渡邊幸二郎さんが手掛けてこられた事業や新発田カトリック教会、その他の教会堂の建築、新発田城三層櫓の再建等はよく知られていますが、建築家として超



最後の公務となった「留学生への奨学金贈呈式」

一流の仕事をしてこられました。

また敬和学園大学の用地に杭を打つところから、文字どおり大学を建てる事業に携わって下さいました。昨年一〇月三〇日に創立二〇周年記念式典を開催した折には、オレンジ会の会長としてお祝いの言葉を賜りました。その時のにこやかなお顔を忘れることができません。苦勞して育てた子供が成人式を迎え、それを喜ぶ気持ちが伝わって来たからです。大学として、この育ての親に恵まれたこととは何にも代え難い幸いでした。

一二月一五日に留学生への奨学金贈呈式を実施しましたが、その折にご自分のこれまでの人生について語られました。向学心を忘れず六三才で工学博士号を取得したことを聞いた時、留学生の目の色が変わったことを思い出します。この贈呈式が、最後の公的な務めになってしまいました。学長として、また友人として処遇していただいたひとりととして、悲しみを感じています。

渡邊幸二郎さんの洗礼名がパウロであることを通夜の席で初めて知りましたが、彼の人生がその名前に相応しいものであることを思い知らされました。わずか二年のお交わりでしたが、二〇年もおつき合いをいただいたように感じます。天国にあっても、地上に残されているご家族のため、新発田建設グループのため、そして敬和学園大学のために、神への執り成しの仕事をお続けくださるよう心から願っています。

(学長 鈴木)

一般寄付者

〈一般〉

- 本田明子、小島一則、坂井情二、東中通教会婦人会、国際ソロフチミスト新潟・はまなす、日本同盟基督教団新発田キリスト教会、日本基督教団東中通教会、日本基督教団見附教会、日本基督教団新潟教会婦人会、日本基督教団新潟信濃町教会、日本基督教団新発田教会、新潟YWCA、高倉ひかり保育園理事長 永倉信嗣
- 〈卒業生・在学生・保護者〉
- 吳賢欄 (三)、青田正子 (二三)、遠藤佑介 (二三)
- 〈学園関係〉
- 新井明、北垣宗治、長澤廣子、敬和学園大学後援会 (4)

(一)内、漢数字は期生、算用数字は回数

昨年一月から募集しておりました創立二〇周年記念事業募金に、合計四〇三件、六六七万九千円のご協力をいただきました。尊いお志を二〇周年記念事業に用いさせていただきます。感謝してご報告申し上げます。



世界へ視野をひろげた学園生活

一九九四年卒業

山口 喜恵(旧姓：鈴木)

一九九一年の春、私は敬和学園大学開学の年に入学しました。先輩もいない。伝統も無い。第一期生である私たちは自分たちの手で大学を作っていくかなければなりません。一年目、私は自分のやりたいことが見いだせずに悩みました。しかし、二年目からはさらに深く英語を学んで世界のことを知りたいと望むようになりました。授業内容や将来に対しても前向きになり、英語クラブを立ち上げたり、敬和祭でイベントを企画したりと、授業はもちろん課外活動にも積極的に取り組んでいきました。

ゼミでは、異文化コミュニケーション学を専攻し、私は世界に目を向け始めました。オフィス・アワーには、さまざまな先生方から海外での体験談や世界がどう変化していくかというお話を聞かせていただき、視野が広がりました。友人たちとカフェテリアで過ごした時間も忘れられない思い出です。

卒業後、私は東京の玉川聖学院で英語教師として五年務めました。間もなく牧師である夫と出会い、長い遠距離恋愛の末結婚し、夫の勤務地である米国カリフォルニアへ。そこで日系人教会の牧師夫人となり、夫を支え二児の母となりま

した。六年後、ヘブライ大学大学院留学を決意した夫と共に、今度は中東の国イスラエルへ。最初はただただ精一杯で何もできませんでしたが、二年目に入り、ようやく私もヘブライ語を学ぶことになりました。その翌年には、貧しいユダヤ人たちへ食料援助をするクリスチャン団体のボランティアとして働くなど充実した毎日を過ごしました。こうして、本来臆病な私が異国を渡り歩けたのも、今思えばあの大学での学びがあったからだと思います。

昨年十一月、私たち家族は帰国し、新潟市で再スタートを切りました。大学を卒業して早一六年！かつて先生方が私の世界観を広げてくださったように、私も若者たちに影響を与える者になれたらと願っています。



愛する家族と共に (イスラエルにて)

学事予告

- ◆四月◆
- 一日 学年始め
 - 五日 入学式
 - 後援会総会
 - 六日 プレイスメントテスト
健康診断(七日まで)
 - 八日 新入生歓迎公開学術講演会
 - 一日 履修相談日
 - 二日 前期講義開始
履修登録期間(一八日まで)
 - 一五日 学費前納入最終日(二〇四年)
 - 新入外国人留学生歓迎懇談会
 - 二日 新入生オリエンテーション
(二二日まで)
- ◆五月◆
- 二日 高校生向け英検対策集中講座
 - 二九日 新発田朝市十二齋市
- ◆六月◆
- 四日 スポーツ大会
 - 一日 大学オープン・カレッジ①
(二二日まで)
 - 一九日 オープンキャンパス①
 - 二〇日 創立記念日
 - 二二日 高校教員対象進学説明会
 - 二五日 大学・高校合同研修会

1 January

- 4 講義再開
7 チャペル・アッセンブリ・アワー②⑥
説教 山田耕太 副学長「赦し」
講話 村山美樹 英語文化コミュニケーション学科 4年
松橋奈未 国際文化学科 4年
鈴木舞 新潟医療福祉大学 4年
和泉悠子 新潟医療福祉大学 4年
「ルワンダフルコンサートとルワンダ視察報告会」
- 12 卒業論文提出締切日
教授会
- 14 チャペル・アッセンブリ・アワー⑦
説教 大澤秀夫 宗教部長
「見るごとと、見とれること」
最終講義 加納実紀代 教授 (写真1)
「カッチャンはなぜ死んだか？」
AO入学試験 (3期) 合格発表
- 15 大学入試センター試験 (～16日)
17 国際交流もちつき大会 (120名)
21 チャペル・アッセンブリ・アワー⑧
説教 鈴木佳秀 学長「しかし、お言葉ですから」
後期エッセイ・コンテスト授賞式
学生団体年度内表彰式
ケリー・ニューエル奨学金授与式
後期資格取得奨励奨学金授与式
- 27 後期講義終了
理事会
- 28 後期末試験 (～2月4日)
教職課程反省会 (写真2)
- 30 一般入学試験 (A日程)
外国人留学生入学試験 (1期)
第23回社会福祉士国家試験



2 February

- 2 教授会
4 一般入学試験 (A日程)、外国人留学生入学試験 (1期)、
センター試験利用入学試験 (1期) 合格発表
社会福祉士現場実習 2 報告会
6 春期休暇 (～4月3日)

- 7 後期集中講義 (～10日)
14 後期末追試験 (～16日)
18 学内合同企業説明会 (71社、90名)
一般入学試験 (B日程)
後期集中講義 (～24日)
21 臨時教授会
23 一般入学試験 (B日程)、AO入学試験 (4期) 合格発表
26 第3回「阿賀北ロマン賞」授賞式、「新発田学研究
センター」開所4周年記念講演会 (150名)
講師 四方田犬彦 明治学院大学教授 (写真3)
演題 『七人の侍』が与えた影響
28 再試験 (～3月1日)



3 March

- 1 図書館蔵書点検 (～3月21日)
4 センター試験利用入学試験 (2期) 合格発表
9 教授会
15 一般入学試験 (C日程)、外国人留学生入学試験 (2期)
第23回社会福祉士国家試験合格発表
臨時教授会
16 一般入学試験 (C日程)、外国人留学生入学試験 (2期)、
センター試験利用入学試験 (3期) 合格発表
18 第17回卒業式 (写真4)
卒業記念パーティー (新潟グランドホテル、写真5)
19 戦争とジェンダー表象研究会 シンポジウム
「第二次世界大戦とニッポン表象・ジェンダー・
エスニシティ」 (新潟大学 ときめいと)
24 理事会・評議員会
25 AO入学試験 (5期) 合格発表
31 学年終わり



Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol.33

自分を変える出会い

英語文化コミュニケーション学科卒業

村山 美樹



仲間たちと（左から3人目が村山さん）

大学1年の春休み、国際ボランティアサークルの一員としてタイを訪れました。この経験は私を大きく変えてくれました。旅の主な目的は住居建築ボランティア活動でしたが、それまで海外に行ったことがなく、家に閉じこもっていることの多かった私にとっては、タイに行ったことそのものが重要でした。

タイでは日本より不便なところがありました。例えばトイレには紙もなく、水も流れないことが多かったです。しかし、タイのトイレは、私に水や紙の大切さなども改めて教えてくれました。驚きやどこか懐かしい気持ちなど、さまざまな感情や気づきが、タイの空気、食べ物、言葉、人などに触れて、自分の中から溢れ出てくるような感じがしました。

帰国後は、それまで何に対しても受身だった自分を少しでも変えて、また再びタイに行くという目標ができました。そして、ありがたいことに卒業前にタイを再訪問することができました。以前にも増して、とても充実した旅になりました。目標を実現させてくれたたくさんのよき出会い、自分を育ててくれた敬和での日々感謝でいっぱいです。



敬和学園大学の最新情報

敬和学園大学

検索

www.keiwa-c.ac.jp

